

日本薬物動態学会

第26回評議員会・総会資料



評議員会／日時:平成23年11月17日(木) 12:35～13:45 場所:大会議室「ダリア2」
総 会／日時:平成23年11月17日(木) 15:15～16:35 場所:フェニックスホール

お願い:

評議員の皆様のご意見を学会活動方針、学会の将来ビジョン等に反映させるための一環として、2008年度から「委員会所属評議員制度」がスタートしました。評議員の皆様、この点をご理解いただくために、本年度も評議員会を総会と別に開催することになりました。しかし、報告、審議内容は異なるものの、評議員会資料は基本的に総会資料と同一ですので、印刷経費の関係から、配布資料は合本とさせていただきます。

日本薬物動態学会 第 26 回評議員会・総会議事次第

司会：太田 茂年会長

(太字：総会での議事次第)

報告、審議事項		頁
1.	開会の辞 (太田 茂年会長) 議事録署名人(2名)選出 *	/
2.	会長挨拶 (乾 賢一会長) *	/
3.	審議事項	/
1)	平成 22 年度決算・監査について (馬場隆彦財務委員長/代理 須藤賢一財務委員, 諏訪俊男監事, 吉村義信監事) *	1
2)	平成 24 年度予算案について (馬場隆彦財務委員長/代理 須藤賢一財務委員) *	4
3)	会則の改定について (高野幹久総務委員長) *	5
4)	新評議員の選出について (高野幹久総務委員長) *	6
5)	次期(第 12 期)監事、第 29 回年会長、第 28 回ワークショップ 代表世話人について(乾賢一会長) *	6
6)	その他	/
4.	報告事項	/
1)	活動報告および活動計画(平成 22~24 年度) (乾 賢一会長)	7
2)	平成 23 年度学会賞等選考経過および結果について (林 正弘選考委員長)	12
3)	次期(第 12 期)役員(理事、監事)および委員会について (鈴木洋史副会長) *	6, 12
4)	新評議員、新名誉会員について (高野幹久総務委員長)	6, 13
5)	DMPK 三賞の選考結果報告 (玉井郁巳編集委員長)	13
6)	JSSX フェローについて (齋藤秀之選考委員長)	17
7)	第 29 回年会長、第 28 回ワークショップ代表世話人について (乾 賢一会長)	6, 17
8)	各種委員会報告 (乾 賢一会長)	/
①	DMPK 編集委員会 (玉井郁巳委員長) *	18
②	DMPK 活性化委員会 (今井輝子委員長) *	19
③	国際対応委員会 (山崎浩史委員長) *	21
④	学会活動活性化委員会 (齋藤秀之委員長) *	22
⑤	ビジョン委員会 (鈴木洋史委員長) *	24
⑥	フォーラム委員会 (山田英之委員長) *	25
⑦	NL 編集委員会 (湯浅博昭委員長) *	26
⑧	財務委員会 (馬場隆彦委員長/代理 須藤賢一財務委員) *	29
⑨	総務委員会 (高野幹久委員長) *	30
9)	会員専用ページ開設について (須藤賢一事務局長) *	31
10)	学会事務局委託先について (須藤賢一事務局長) *	32
5.	第 26 回 WS および第 6 回 SC について (森脇俊哉第 26 回 WS 代表世話人) #	33
6.	第 27 回年会について (千葉 寛第 27 回年会長) #	34
7.	平成 23 年度学会賞各賞、DMPK 三賞、JSSX フェロー称号、ベストホスター賞の授与式 (乾 賢一会長)	/
8.	閉会の辞 (太田 茂年会長) *	/

<注意> 1) 評議員会では各委員会活動を中心に報告させていただく関係から、*印のみ議題として審議および報告させていただきます。2) #懇親会時に報告

I. 審議事項

1)平成 22 年度決算・監査について(馬場隆彦財務委員長/代理 須藤賢一財務委員)

平成 22 年度 収支計算書(一般会計) (平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで)

勘 定 科 目	平成21年度 決算額	平成22年度 予算額(A)	平成22年度 決算額(B)	差異 (A)-(B)	備 考
(収入の部)					
会費収入	20,595,000	22,375,000	20,078,000	2,297,000	
正会員会費	13,024,000	14,400,000	13,008,000	1,392,000	正会員 1626名
学生会員会費	1,296,000	1,800,000	1,160,000	640,000	学生会員 290名
賛助会員会費	5,900,000	5,800,000	5,550,000	250,000	56社 111口
購読会員会費	375,000	375,000	360,000	15,000	24機関
事業収入	9,536,864	10,120,000	10,236,608	-116,608	
論文投稿料	2,211,000	2,000,000	3,196,000	-1,196,000	DMPK Vol.25No.1～No.6
別刷料	275,570	300,000	382,865	-82,865	DMPK Vol.25No.1～No.6
バックナンバー売上	430,296	600,000	381,000	219,000	海外販売28件他
広告掲載料	6,227,200	7,000,000	5,875,200	1,124,800	DMPK、パナー広告
雑収入	392,798	220,000	401,543	-181,543	学著協複写使用料等
その他補助金等収入	4,700,288	0	4,800,205	-4,800,205	科学研究費補助金,第25回年会、第24回WS補助金戻入
利息	8,435	20,000	5,062	14,938	
小 計	34,840,587	32,515,000	35,119,875	-2,604,875	
前期繰越金	8,254,069	6,576,180	6,576,180	0	
合 計	43,094,656	39,091,180	41,696,055	-2,604,875	
(支出の部)					
事務局経費	663,831	900,000	644,297	255,703	
通信費	476,089	650,000	433,327	216,673	宅急便等、郵便代
振込手数料	70,689	50,000	93,168	-43,168	
事務消耗品費	117,053	200,000	117,802	82,198	事務用品等
印刷費	345,969	300,000	364,584	-64,584	会議資料等
事務局人件費	805,000	2,010,000	2,010,000	0	
事務委託費	5,177,246	5,100,000	5,107,001	-7,001	IMICへの業務委託費
出版経費	15,927,799	16,070,000	18,220,800	-2,150,800	DMPK編集経費
編集費	3,997,745	3,400,000	4,526,780	-1,126,780	DMPK Vol.25No.1～No.6
印刷費	8,930,735	9,600,000	10,678,140	-1,078,140	DMPK Vol.25No.1～No.6
雑誌発送経費	1,672,769	1,620,000	1,529,474	90,526	DMPK Vol.25No.1～No.6
編集業務委託費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	DMPK編集事務経費
電子投稿システム利用料	326,550	450,000	486,406	-36,406	電子投稿システム年間利用料
会議費	4,047,594	3,500,000	3,244,835	255,165	理事会・各種委員会
学会賞等経費	1,572,389	1,500,000	1,888,773	-388,773	学会賞各賞、DMPK三賞、受賞者紹介冊子作成費等
年会開催補助金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	第25回年会用
ワークショップ開催補助金	300,000	300,000	300,000	0	第24回ワークショップ
公認会計士監査費用	315,000	315,000	315,000	0	平成21年度決算監査費用
慶弔費	78,708	100,000	19,332	80,668	香典・弔電代
ホームページ関係費	462,710	500,000	460,170	39,830	学会HP保守、サーバレンタル料、掲載料
学術著作権協会会費分担金	9,000	9,000	9,000	0	学術著作権協会会費分担金
雑費	813,230	300,000	225,167	74,833	会員DB保守料、メール配信手数料、為替手数料等
法人化準備金	0	300,000	0	300,000	
基金繰入支出	5,000,000	0	0	0	
予備費	0	300,000	312,350	-12,350	プロジェクター、アンケート集計費用
小 計	36,518,476	32,504,000	34,121,309	-1,617,309	
当期収支差額	-1,677,889	11,000	998,566	-987,566	
次期繰越金	6,576,180	6,587,180	7,574,746	-987,566	
合 計	43,094,656	39,091,180	41,696,055	-2,604,875	

平成 23 年 2 月 23 日

上記監査の結果、正確であることを認めます。

監 事 諏訪 俊男 印

監 事 吉村 義信 印

(印鑑省略)

貸借対照表
(平成22年12月31日現在)

借方	金額	貸方	金額
科目	金額	科目	金額
現金	49,418	未払費用	3,465,575
普通預金(三井住友/麴町)	4,131,006	前受会費	10,462,000
普通預金(みずほ/本郷)	9,255,323		
郵便振替	5,951,583		
未収入金	2,071,811		
立替金	43,180		
		次期繰越金	7,574,746
		(前期繰越金)	6,576,180
		(当期収支差額)	998,566
合計	21,502,321	合計	21,502,321

財産目録
(平成22年12月31日現在)

資産の部		
現金	事務局小口現金	49,418
普通預金	三井住友銀行 麴町支店	4,131,006
普通預金	みずほ銀行 本郷支店	9,255,323
郵便振替	東京貯金事務センター	5,951,583
未収入金		2,071,811
	投稿料 Vol.25 No.6 他	1,094,000
	別刷料 Vol.25 No.6	25,615
	広告掲載料 Vol.25 No.6	951,200
	雑収入 許諾料	996
立替金	第26回年会費用	43,180
資産合計		21,502,321
負債の部		
未払費用		3,465,575
	出版経費(編集)Vol.25 No.6	786,020
	出版経費(印刷)Vol.25 No.6	2,128,848
	出版経費(通信費)Vol.25 No.6	275,136
	事務局経費(通信費)	13,239
	ホームページ保守料	180,000
	学会賞等経費	73,332
	薬学会学著協分担金	9,000
前受会費	平成23年度会費	10,462,000
負債合計		13,927,575

平成 22 年度 収支計算書(基金会計)

(平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 12 月 31 日まで)

勘 定 科 目	平成22年度 予算額(A)	平成22年度 決算額(B)	差 異 (A)-(B)	備 考
(収入の部)				
受取利息	0	14,563	-14,563	利息
当期収入合計	0	14,563	-14,563	
前期繰越金	39,880,402	39,880,402	0	
合 計	39,880,402	39,894,965	-14,563	
(支出の部)				
雑費	0	1,155	-1,155	残高証明発行手数料
当期支出合計	0	1,155	-1,155	
次期繰越金	39,880,402	39,893,810	-13,408	
合 計	39,880,402	39,894,965	-14,563	

平成 23年 2月 23日

上記監査の結果、正確であることを認めます。

監 事 諏訪 俊男 印

監 事 吉村 義信 印
(印鑑省略)

貸 借 対 照 表 (基金会計)

(平成22年12月31日現在)

借 方		貸 方	
科 目	金額	科 目	金額
DMPK基金(三菱東京UFJ)	4,006,901	次期繰越金	39,893,810
DMPK基金(郵便定額預金)	8,000,000	(前期繰越金)	39,880,402
国際化対応基金(三井住友)	5,945,191	(当期収支差額)	13,408
若手育成基金(三菱東京UFJ)	6,915,956		
薬物動態試験基金(三菱UFJ信託)	5,018,522		
別途積立金(みずほ)	10,007,240		
合 計	39,893,810	合 計	39,893,810

財 産 目 録 (基金会計)

(平成22年12月31日現在)

資産の部		
DMPK基金	三菱東京UFJ銀行 春日町支店 定期預金	4,006,901
DMPK基金	定額郵便貯金 四谷支店	8,000,000
国際化対応基金	三井住友銀行 麹町支店 普通預金	5,945,191
若手育成基金	三菱東京UFJ銀行 春日町支店 普通預金	6,915,956
薬物動態試験基金	三菱UFJ信託銀行 上野支店 普通預金	5,018,522
別途積立金	みずほ銀行 本郷支店 普通預金	10,007,240
資産合計		39,893,810
負債の部		
該当なし		
負債合計		0

2).平成24年度予算案について(馬場財務委員長/代理 須藤賢一財務委員)

平成 24 年度 収支予算案(一般会計)
(平成 24 年 1 月 1 日から平成 24 年 12 月 31 日まで)

勘 定 科 目	平成22年度 決算額	平成23年度 予算額	平成24年度 予算額	備 考
(収入の部)				
会費収入	20,078,000	22,710,000	21,710,000	
正会員会費	13,008,000	15,040,000	14,400,000	1800名
学生会員会費	1,160,000	1,760,000	1,400,000	350名
賛助会員会費	5,550,000	5,550,000	5,550,000	111口
購読会員会費	360,000	360,000	360,000	24社
事業収入	10,236,608	10,250,000	11,550,000	
論文掲載料	3,196,000	2,200,000	3,300,000	平成22年度決算に準拠
別刷料	382,865	300,000	400,000	平成22年度決算に準拠
バックナンバー売上	381,000	450,000	450,000	平成22年度決算に準拠
広告掲載料	5,875,200	7,000,000	7,000,000	
雑収入	401,543	300,000	400,000	学術著作権機構、英文許諾抄録料等
その他補助金収入	4,800,205	0	0	
利息	5,062	10,000	10,000	平成22年度決算に準拠
小 計	35,119,875	32,970,000	33,270,000	
前期繰越金	6,576,180	11,643,093	7,574,746	
合 計	41,696,055	44,613,093	40,844,746	
(支出の部)				
事務局経費	644,297	900,000	650,000	
通信費	433,327	650,000	400,000	前年実績に基づく
振込手数料	93,168	50,000	100,000	前年実績に基づく
事務消耗品費	117,802	200,000	110,000	前年実績に基づく
印刷費	364,584	300,000	300,000	
事務局人件費	2,010,000	2,400,000	2,400,000	事務局長
事務委託費	5,107,001	5,100,000	5,300,000	契約額
出版経費	18,220,800	16,070,000	16,800,000	
編集費	4,526,780	4,000,000	5,800,000	英文校正、早期公開費用
印刷費	10,678,140	9,000,000	9,000,000	雑誌印刷費用(約¥1,500,000×6回)
通信費	1,529,474	1,620,000	1,500,000	雑誌発送費用(¥270,000×6回)
編集業務委託費	1,000,000	1,000,000	0	契約額
電子投稿システム利用料	486,406	450,000	500,000	
会議費	3,244,835	3,460,000	3,200,000	理事会、委員会、会議交通費等
学会賞等経費	1,888,773	1,500,000	1,500,000	前年実績に基づく
年会開催補助金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	前年実績に基づく
ワークショップ開催補助金	300,000	0	0	H23より廃止
慶弔費	19,332	100,000	0	
ホームページ関係費	460,170	900,000	750,000	ニューズメール配信経費(¥120,000)含む
学術著作権協会会費分担金	9,000	9,000	9,000	
公認会計士監査費用	315,000	315,000	315,000	
法人化準備金	0	300,000	0	
雑費	225,167	300,000	660,000	会員専用ページ新設費¥360,000増額
予備費	312,350	300,000	300,000	president's fund(¥200,000)含む
基金繰入支出	0	0	0	
小 計	34,121,309	32,954,000	33,184,000	
今期収支差額	998,566	16,000	86,000	
次期繰越金	7,574,746	11,659,093	7,660,746	
合 計	41,696,055	44,613,093	40,844,746	

3)会則の改定について(高野幹久総務委員長)

3)-①【第1章 名称】に関する会則

<改定前>

第2条 本会は事務局を〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館 財団法人 国際医学情報センター内に置く。

↓

<改定後>

第2条 本会は事務局を〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル 株式会社 コネット内に置く。

3)-②【第4章 役員および評議員】に関する会則

<改定前>

第16条 本会に総務委員会、財務委員会、編集委員会および国際対応委員会を設置する。会長は必要に応じ、理事会の承認を得てほかに委員会を設けることができる。第14条で定める場合を除き、それぞれの委員会の委員長は理事の中から会長が指名し、理事会の承認を受ける。委員は理事会の承認を得て、会長が委嘱する。委員の任期は2年とし再選は妨げない。

↓

<改定後>

第16条 本会に総務委員会、財務委員会、編集委員会および国際対応委員会を設置する。会長は必要に応じ、理事会の承認を得てほかに委員会を設けることができる。第14条で定める場合を除き、それぞれの委員会の委員長は、原則として理事の中から会長が指名し、理事会の承認を受ける。委員は理事会の承認を得て、会長が委嘱する。委員の任期は2年とし再選は妨げない。

3)-③【付則】

<改定前>

3. 本規約は評議員会および総会で承認された翌日より、施行される。

↓

<改定後>

3. 本会則は評議員会および総会で承認された翌日より、施行される。

※第2条及び第16条は平成24年1月1日付けで改定とする

4). 新評議員、新名誉会員の選出について(高野幹久総務委員長)

4)-① 新評議員の選出について(評議員会承認事項)

評議員会選出および資格に関する規定(細則3)に従い、推薦のあった下記16名について総務委員会で推薦資料に基づき予備審査を実施した結果、すべて評議員として相応しいとして理事会に答申し、9月29日開催の第95回理事会で、全評議員会に推挙することが承認された。

新評議員候補者名(敬称略、五十音順)

	候補者名	所属	部署・学部等	会員歴	推薦者
1	安達 弥永	積水メディカル株式会社	薬物動態研究所	13年	二宮 真一
2	井上 勝央	名古屋市立大学大学院	薬学研究科	13年	湯浅 博昭
3	岩城 正宏	近畿大学	薬学部 医療薬学科	22年	森本 一洋
4	大石 昌代	ファイザー株式会社	クリニカル・ファーマコロジー部	7年	諏訪 俊男
5	大戸 茂弘	九州大学大学院	薬学研究院薬剤学	13年	家入 一郎
6	奥平 典子	第一三共株式会社	研究開発部 薬物動態研究所	12年	泉 高司
7	小倉 健一郎	東京薬科大学	薬学部	18年	平塚 明
8	十亀 祥久	大日本住友製薬	薬物動態研究所	14年	矢吹 昌司
9	鈴木 将之	田辺三菱製薬株式会社	研究本部 薬物動態研究所第二部	8年	山田一麿呂
10	登美 斉俊	慶應義塾大学	薬学部薬剤学講座	13年	中島 恵美
11	廣田 孝司	東京理科大学	薬学部薬学科	11年	五十嵐 隆
12	前川 京子	国立医薬品食品衛生研究所	医薬安全科学部	7年	斎藤 嘉朗
13	前田 和哉	東京大学大学院	薬学研究科 分子薬物動態学教室	12年	杉山 雄一
14	宮内 正二	東邦大学	薬学部 薬物動態学教室	6年	杉山 雄一
15	森下 真莉子	星薬科大学	薬剤学教室	7年	杉山 雄一
16	山下 富義	京都大学大学院薬学研究科	薬品動態制御学分野	23年	橋田 充

4)-② 新名誉会員候補者について

鎌滝哲也氏、辻 彰氏、伯水英夫氏の3名が推薦された。総務委員会で予備審査し、3名とも名誉会員に相応しいとして、9月29日開催の第95回理事会に推挙し、承認された。

5). 次期(第12期)監事、第29回年会長、第28回ワークショップ代表世話人について(乾 賢一会長)

次期監事、第29回年会長、第28回ワークショップ代表世話人候補者として、理事会より下記の方々が推挙された。

- ◆第12期監事：大野泰雄氏(国立医薬品食品衛生研究所)、馬場隆彦氏(塩野義製薬)
- ◆第29回(平成26年)年会長：寺崎哲也氏(東北大学)
- ◆第28回(平成26年)ワークショップ代表世話人：布施英一氏(協和発酵キリン)

6). その他

Ⅱ. 報告事項

1). 平成 22 年度活動報告、平成 23 年度活動中間報告、平成 24 年度活動計画（乾 賢一会長）

【平成 22 年度活動報告】

A. 庶務報告

1. 会員の動向

(1) 会員数(平成 22 年 12 月 31 日)

正会員	1,617 名
学生会員	292 名
名誉会員	18 名

合計会員数 1,929 名

賛助会員	56 社
購読会員	25 社

(2) 名誉会員の推薦

新名誉会員 2 名

(3) 評議員推薦

新評議員 9 名

総評議員数(平成 22 年 12 月 31 日) 212 名

2. 会議の開催

(1) 理事会

第 88 回:平成 22 年 3 月 17 日(水)

第 89 回:平成 22 年 6 月 2 日(水)

第 90 回:平成 22 年 8 月 17 日(火)

第 91 回:平成 22 年 10 月 6 日(水)

第 92 回:平成 22 年 12 月 21 日(火)

(2) 評議員会・総会

平成 22 年 10 月 8 日(金)

(3) 監事会および公認会計士による外部監査

平成 22 年 2 月 23 日(平成 21 年度財務諸表の内部監査を実施)

平成 22 年 3 月 11、12 日(平成 21 年度会計について公認会計士による外部監査を実施)

3. 各種委員会

平成 22 年度組織されている委員会は以下の通りである。それぞれの委員会は必要に応じ開催し、それぞれの課題について討議・検討の上、理事会に提案・具申し承認事項を随時実行に移す。

(1) 総務委員会(委員長:高野幹久)

(2) 財務委員会(委員長:馬場隆彦)

(3) 編集委員会(委員長:玉井郁巳)

- (4)DMPK 活性化委員会(委員長:今井輝子)
- (5)国際対応委員会(委員長:山崎浩史)
- (6)学会活動活性化委員会(委員長:齋藤秀之)
- (7)フォーラム委員会(委員長:山田英之)
- (8)ビジョン委員会(委員長:鈴木洋史)
- (9)NL 編集委員会(委員長:湯浅博昭)

B. 活動報告

- 1. 会誌「Drug Metabolism and Pharmacokinetics」、ニュースレターの発行
 - Vol.25 No.1(平成 22 年 2 月 25 日) 119P
 - Vol.25 No.2(平成 22 年 4 月 25 日) 99P
 - Vol.25 No.3(平成 22 年 6 月 25 日) 97P
 - Vol.25 No.4(平成 22 年 8 月 25 日) 89P
 - Vol.25 No.5(平成 22 年 10 月 25 日) 109P
 - Vol.25 No.6(平成 22 年 12 月 25 日) 114P

C. 講演会等の開催

- 1. 第 4 回日本薬物動態学会ショートコース
 - 平成 22 年 4 月 22 日(木) 慶応義塾大学薬学部
 - 実行委員長:寺村俊夫
- 2. 第 24 回日本薬物動態学会ワークショップ
 - 平成 22 年 4 月 22 日(木)~23 日(金) 慶応義塾大学薬学部
 - 代表世話人:永山績夫
- 3. 日本薬物動態学会第 25 回年会 創立 25 周年記念市民公開講座
 - 平成 22 年 10 月 6 日(水) 大宮ソニックシティ 小ホール
 - 実行委員長:林 正弘
- 4. 第 25 回日本薬物動態学会年会
 - 平成 22 年 10 月 7 日(木)~10 月 9 日(土) 大宮ソニックシティ
 - 年会長:林 正弘

D. 他学会への協賛等

- 1. 分子イメージング研究シンポジウム 2010(後援)
 - 平成 22 年 1 月 21 日~22 日(東京)
- 2. イメージングバイオマーカーが拓く明日の医療・創薬
-放射性イメージング薬ガイダンスの制定に向けて-(後援)
 - 平成 22 年 2 月 19 日・東京
- 3. 第 17 回 HAB 研究機構学術年会(協賛)
 - 平成 22 年 5 月 21 日~22 日(東京)
- 4. APDD シンポジウム「NEDO 橋渡し促進技術開発/
マイクロドーズ臨床試験を活用した革新的創薬技術の開発(協賛)
 - 平成 22 年 5 月 28 日・東京
- 5. 日本学術会議シンポジウム(後援)
 - 平成 22 年 6 月 11 日・東京
- 6. 第 58 回質量分析総合討論会(共催)

- 平成 22 年 6 月 16 日～18 日・茨城
7. 第 37 回日本トキシコロジー学会学術年会(協賛)
平成 22 年 6 月 16 日～18 日・沖縄
8. シンポジウム モレキュラー・キラリティー2010(共催)
平成 22 年 7 月 11 日～12 日・北海道
9. CBI 学会 2010 年大会(協賛)
平成 22 年 9 月 15 日～17 日・東京
10. 分子イメージング研究戦略推進プログラム・キックオフシンポジウム(後援)
平成 22 年 11 月 24 日・東京
11. 第31回日本臨床薬理学会年会(後援)
平成 22 年 12 月 1 日～3 日・京都

E. 賞の授与(各賞、五十音順、敬称略)

1. 日本薬物動態学会学会賞
・橋田 充(京都大学大学院薬学研究科)
受賞対象題目「薬物体内動態の精密制御法の開発とその機能評価に関する研究」
2. 日本薬物動態学会北川賞
・川合良成(Novartis Institute for Biomedical Research/現在 第一三共)
受賞対象題目「医薬品開発における薬物速度論モデルの確立と活用」
3. 日本薬物動態学会功労賞
・大塚峯三(日本薬物動態学会前事務局長)
受賞対象題目「学会の円滑な運営に資する事務体制の確立」
4. 日本薬物動態学会奨励賞
・宇野泰広(株式会社新日本科学薬物代謝分析センター)
受賞対象題目「創薬に活かされるカンクイザル薬物代謝酵素遺伝子の同定・解析研究」
・寺田智祐(滋賀医科大学医学部附属病院薬剤部)
受賞対象題目「薬物トランスポータの発現・ゲノム解析とその臨床応用に関する研究」
・平塚真弘(東北大学大学院薬学研究科)
受賞対象題目「薬物代謝酵素遺伝子の SNP スクリーニングとバリエーション酵素の機能変化解析に関する研究」

F. その他

特になし

【平成 23 年度活動中間報告】

A. 会議

評議員会、総会、理事会、監事会及び各種委員会の計画は次のとおりである。

1. 評議員会・総会

評議員会、総会は年会の期間中(11月17日)に開催し、平成22,23年度活動報告、収支決算、平成24年度活動計画及び平成24年度収支予算、その他の学会の運営上必要な議案を審議の上議決する。

2. 理事会

理事会は年5回(4月、8月、9月、11月年会時、12月)開催あるいは開催予定。

3. 各種委員会

平成23年度組織されている委員会は、平成22年度活動報告3.に記載の通りである。それぞれの委員会は必要に応じ開催し、昨年に引き続いた課題について討議・検討する。活動成果については、委員会報告(平成22,23年度の総括報告)を参照。

B. 活動中間報告

1. 会誌「Drug Metabolism and Pharmacokinetics」、ニュースレターの発行

Vol.26 No.1(平成23年 2月25日) 119P
Vol.26 No.2(平成23年 4月25日) 97P
Vol.26 No.3(平成23年 6月25日) 87P
Vol.26 No.4(平成23年 8月25日) 133P
Vol.26 No.5(平成23年 10月25日) 107P
Vol.26 No.6(平成23年 12月25日) 発行予定

C. 集会、講演会の開催中間報告

1. 集会

次の集会を開催または開催予定であり、各計画を実施するに当たっては各集会を担当する委員会において具体的計画を立案する。

(1) 第5回日本薬物動態学会ショートコース

平成23年5月12日(木) 東京大学医学部教育研究棟内鉄門講堂
実行委員長:森脇俊哉

(2) 第25回日本薬物動態学会ワークショップ

平成23年5月12日(木)～13日(金) 東京大学医学部教育研究棟内鉄門講堂
代表世話人:寺村俊夫

(3) 第26回日本薬物動態学会年会

平成23年11月16日(木)～18日(土) 広島国際会議場
実行委員長:太田 茂

(4) 日本薬物動態学会第26回年会 市民公開講演会

平成23年11月19日(土) 広仁会館
実行委員長:太田 茂

2. 表彰および奨励

- (1) 日本薬物動態学会学会賞各賞(学会賞、北川賞、奨励賞、功労賞)の表彰
- (2) DMPK 三賞(ベストサイテーション論文賞、編集委員が選ぶ最優秀論文賞)の表彰
- (3) 新名誉会員(国内/海外)の推挙
- (4) JSSX フェロー(国内/海外)の推挙
- (5) ベストポスター賞の表彰

D. その他

1. 本学会の目的に対して必要と認められる活動を行う。それらの実施に関してはその都度、理事会

又は評議員会で立案、計画実施する。

【平成 23 年度活動計画】

会議および活動内容は例年通り実施するものとする。なお、平成24年度より新体制(12期)がスタートし、委員会の活動内容が変更となる。(委員会については本資料 13 ページ 3)-④をご参照ください)

2). 平成 23 年度学会賞等選考経緯および結果について(林 正弘選考委員長)

日本薬物動態学会細則並びに学会賞等選考規程に基づいて、平成 23 年 7 月 5 日に選考委員会を開催し、厳正かつ総合的に審査した結果、平成 23 年学会賞(1 件)、功労賞(1 件)、奨励賞(3 件)のそれぞれ受賞者を下記のように選定し理事会に上申、理事会で承認され、平成 23 年度学会賞各賞の受賞者が下記の通り決定した。尚、北川賞については推薦がなかった。

【学会賞受賞者】

◆山下伸二 (摂南大学薬学部)

受賞対象題目「医薬品の消化管吸収性の予測と改善に関する細胞からヒト臨床に至る網羅的研究」

【功労賞受賞者】

◆大野泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)

受賞対象題目「薬物動態研究の発展に対する行政サイドからの貢献」

【奨励賞受賞者】

◆井上勝央 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

受賞対象題目「薬物動態に関わるトランスポーターの探索同定と創薬・臨床支援への展開」

◆高田龍平 (東京大学医学部附属病院)

受賞対象題目「消化管および肝臓におけるトランスポーターを介した胆汁脂質動態制御機構の解析」

◆濱田哲暢 (熊本大学医学部附属病院薬剤部)

受賞対象題目「慢性骨髄性白血病治療薬イマチニブにおける個別化医療の実践と薬物動態変動要因の解析」

(敬称略・各賞五十音順)

3). 次期(第 12 期)役員(理事、監事)および委員会について(鈴木洋史副会長)

3)-① 次期(第 12 期)理事選挙結果について

全評議員に 6 月 13 日(月)に投票依頼、7 月 20 日(水)に投票締め切り(必着)、7 月 26 日(火)に諏訪監事、吉村監事の立会いのもと、開票を行なった。開票の結果、得票数上位 9 名並びに次点、次々点が下記の通り決定した。なお、「得票が同数の場合は年少者から選出される」との規定に従い処理した。

◆ 得票数上位 9 名と次点、次々点者(敬称略)

1 位 千葉 寛 、 2 位 山崎浩史 、 3 位 横井 毅
4 位 今井輝子 、 5 位 泉 高司 、 6 位 森脇俊哉
7 位 細川正清 、 7 位 大森 栄 、 9 位 寺村俊夫
次点 川合良成 、 次々点 永田 清

◆ 開票日、場所および開票

日時：平成 23 年 7 月 26 日 (火) 13 : 55 ~ 15 : 40

場所：財団法人国際医学情報センター 2 階、第 2 会議室

開票者および立会い人：諏訪俊男、吉村義信 各監事 (立会い)、

須藤賢一事務局長、田子智香子、千葉 良、宮木晶子、黒川恵美子 (事務局)

◆ 投票率

選挙権を有する評議員数：212名、期限内に投票を行使した評議員数：166名、
投票率：78.3%（前回72.8%）

投票総数：1494票、有効投票数：1434票、白票：59票、無効投票数：1票

※ 無効投票の判定は、投票依頼要領の記載事項に準拠。

3)-②会長指名理事について

第12期会長指名理事として、以下の2氏が指名された。

- ◆ 川合良成（第一三共）
- ◆ 齋藤秀之（熊本大学医学部附属病院）

3)-③次期監事について

（資料6ページをご参照ください）

3)-④次期委員会および委員長について

第12期理事会では、以下の委員会を設置する。尚、委員長は記載の通り。

- ◆ 総務委員会（委員長：細川正清）
- ◆ 財務委員会（委員長：寺村俊夫）
- ◆ DMPK編集委員会（委員長：玉井郁巳）
- ◆ DMPK活性化委員会（委員長：今井輝子）
- ◆ 国際対応委員会（委員長：山崎浩史）
- ◆ 学会活動活性化委員会（委員長：齋藤秀之）
- ◆ フォーラム委員会（委員長：川合良成）
- ◆ NL編集委員会（委員長：湯浅博昭）
- ◆ WEB委員会（委員長：寺田智祐）

（敬称略）

4). 新評議員、新名誉会員について(高野幹久総務委員長)

（資料6ページをご参照ください）

5). DMPK三賞の選考結果報告(玉井郁巳編集委員長)

①編集委員が選ぶ最優秀論文賞

(DMPK Editors' Award for the Most Excellent Article in 2010)

【1st Place】

著者, 所属: Tomoko SUGIURA¹⁾, Toru OTAKE¹⁾, Takuya SHIMIZU¹⁾, Tomohiko WAKAYAMA²⁾, David L. SILVER³⁾, Rie UTSUMI¹⁾, Tomohiro NISHIMURA¹⁾, Shoichi ISEKI²⁾, Noritaka NAKAMICHI¹⁾, Yoshiyuki KUBO¹⁾, Akira TSUJI¹⁾ and Yukio KATO¹⁾

¹⁾ Faculty of Pharmacy, Institute of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, ²⁾ Department of Histology and Embryology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University, ³⁾ Department of Biochemistry, Albert Einstein College of Medicine)

論文題目: PDZK1 Regulates Organic Anion Transporting Polypeptide Oatp1a in Mouse Small Intestine. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 25(6), 588-598 (2010)

【2nd Place】

著者, 所属 : Arief NURROCHMAD¹⁾, Yuji ISHII¹⁾, Hitomi NAKANO¹⁾, Tae INOUE³⁾, Toru HORIE³⁾, Kazumi SUGIHARA⁴⁾, Shigeru OHTA⁴⁾, Akinobu TAKETOMI²⁾, Yoshihiko MAEHARA²⁾ and Hideyuki YAMADA¹⁾

(¹⁾Laboratory of Molecular Life Sciences, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyushu University,²⁾ Department of Surgery and Science, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University,³⁾ PhoenixBio. Co., Ltd,⁴⁾ Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University)

論文題目: Activation of Morphine Glucuronidation by Fatty Acyl-CoAs and Its Plasticity: A Comparative Study in Humans and Rodents Including Chimeric Mice Carrying Human Liver. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 25(3),262-273 (2010)

【3rd Place】

著者, 所属 : Wataru SATO¹⁾, Hiroyuki SUZUKI¹⁾, Takamitsu SASAKI¹⁾, Takeshi KUMAGAI¹⁾, Shuhei SAKAGUCHI¹⁾, Michinao MIZUGAKI²⁾, Shinichi MIYAIRI³⁾, Yasushi YAMAZOE⁴⁾ and Kiyoshi NAGATA¹⁾

(¹⁾ Department of Environmental and Health Science, Tohoku Pharmaceutical University,²⁾ Department of Clinical Pharmaceutics, Tohoku Pharmaceutical University,³⁾ Laboratory of Bio-organic Chemistry, College of Pharmacy, Nihon University,⁴⁾ Division of Drug Metabolism and Molecular Toxicology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University)

論文題目: Construction of a System that Simultaneously Evaluates CYP1A1 and CYP1A2 Induction in a Stable Human-derived Cell Line using a Dual Reporter Plasmid. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 25(2), 180-189(2010)

②ベストダウンロード論文賞

(DMPK Award for the Most Frequently Downloaded Article in 2009)

1) Review Article

【1st Place】

著者, 所属 : Hiroyuki KUSUHARA and Yuichi SUGIYAMA

(Graduate School of Pharmaceutical Sciences, The University of Tokyo)

論文題目: In vitro-in vivo Extrapolation of Transporter-mediated Clearance in the Liver and Kidney. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(1), 37-52(2009)

【2nd Place】

著者, 所属: Masoud JAMEI¹⁾, Gemma L DICKINSON²⁾ and Amin ROSTAMI-HODJEGAN¹⁾³⁾

(¹⁾ Simcyp Limited,²⁾ Eli Lilly,³⁾ Academic Unit of Clinical Pharmacology, University of Sheffield)

論文題目: A Framework for Assessing Inter-individual Variability in Pharmacokinetics Using Virtual Human Populations and Integrating General Knowledge of Physical Chemistry, Biology, Anatomy, Physiology and Genetics: A Tale of 'Bottom-Up' vs 'Top-Down' Recognition of Covariates. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(1), 53-75(2009)

【3rd Place】

著者, 所属: Donald E. MAGER, Sukyung WOO and William J. JUSKO

(Department of Pharmaceutical Sciences, University at Buffalo, State University of New York)

論文題目: Scaling Pharmacodynamics from In Vitro and Preclinical Animal Studies to Humans. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(1), 16-24(2009)

2) Original Article

【1st Place】

著者, 所属: Nobuo SEKIGUCHI¹⁾, Atsuko HIGASHIDA²⁾, Motohiro KATO¹⁾, Yoshiaki NABUCHI¹⁾, Tetsuya MITSUI¹⁾, Kenji TAKANASHI¹⁾, Yoshinori ASO¹⁾ and Masaki ISHIGAI¹⁾

(¹⁾ Pre-Clinical Research Department, Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.,²⁾ Discovery Platform Technology Department, Chugai Pharmaceutical Co., Ltd.)

論文題目: Prediction of Drug-Drug Interactions based on Time-Dependent Inhibition from High Throughput Screening of Cytochrome P450 3A4 Inhibition. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(6), 500-510(2009)

【2nd Place】

著者, 所属: Masuhiro NISHIMURA¹⁾, Satoshi SUZUKI²⁾, Tetsuo SATOH²⁾ and Shinsaku NAITO¹⁾

(¹⁾ Research and Development Center, Otsuka Pharmaceutical Factory, Inc.,²⁾ Non-Profit Organization Human & Animal Bridging Research Institute, Ichikawa General Hospital)

論文題目: Tissue-Specific mRNA Expression Profiles of Human Solute Carrier 35 Transporters. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(1), 91-99(2009)

【3rd Place】

著者, 所属: Mikihisa TAKANO, Yoshifumi OTANI, Minori TANDA, Masashi KAWAMI, Junya NAGAI and Ryoko YUMOTO

(Department of Pharmaceutics and Therapeutics, Graduate School of Biomedical Sciences, Hiroshima University)

論文題目: Paclitaxel-resistance Conferred by Altered Expression of Efflux and Influx Transporters for Paclitaxel in the Human Hepatoma Cell Line, HepG2. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 24(5), 418-427(2009)

③ベストサイテーション論文賞

(DMPK Award for the Most Frequently Cited Article in 2007)

1) Review Article

【1st Place】

著者, 所属: Shigeru KAWAKAMI and Mitsuru HASHIDA

(Department of Drug Delivery Research, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kyoto University)

論文題目: Targeted Delivery Systems of Small Interfering RNA by Systemic Administration. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 22(3), 142-151(2007)

【2nd Place】

著者, 所属: Kazuhide IWASAKI

(Department of Pharmacokinetics Dynamics Metabolism, Pfizer Global Research Development, Nagoya Laboratories, Pfizer Japan Inc.)

論文題目: Metabolism of Tacrolimus (FK506) and Recent Topics in Clinical Pharmacokinetics. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 22(5), 328-335(2007)

【3rd Place】

著者, 所属: Kiyohiko SUGANO, Arimichi OKAZAKI, Shohei SUGIMOTO, Sumitra TAVORNVIPAS, Atsushi OMURA and Takashi MANO

(Global Research & Development, Nagoya Laboratories, Pharmaceutical R&D, Pfizer Inc.)

論文題目: Solubility and Dissolution Profile Assessment in Drug Discovery. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 22(4), 225-254(2007)

2) Original Article

【1st Place】

著者, 所属 Masuhiro NISHIMURA¹⁾, Akiko KOEDA²⁾, Yasuyuki SUGANUMA²⁾, Emako SUZUKI²⁾, Takefumi SHIMIZU²⁾, Mitsuo NAKAYAMA¹⁾, Tetsuo SATOH²⁾³⁾, Shizuo NARIMATSU⁴⁾ and Shinsaku NAITO¹⁾

(¹⁾ Department of Drug Metabolism, Division of Pharmacology, Drug Safety and Metabolism, Otsuka Pharmaceutical Factory, Inc.,²⁾ Ina Research Inc.,³⁾ Non-Profit Organization Human & Animal Bridging Research Organization,⁴⁾ Laboratory of Health Chemistry, Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama University)

論文題目: Comparison of Inducibility of CYP1A and CYP3A mRNAs by Prototypical Inducers in Primary Cultures of Human, Cynomolgus Monkey, and Rat Hepatocytes. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 22(3), 178-186(2007)

【2nd Place】

著者, 所属: Yoshiteru KAMIYAMA¹⁾²⁾, Tsutomu MATSUBARA¹⁾³⁾, Kouichi YOSHINARI¹⁾, Kiyoshi NAGATA¹⁾⁴⁾, Hidetaka KAMIMURA²⁾ and Yasushi YAMAZOE¹⁾³⁾

(¹⁾ Division of Drug Metabolism and Molecular Toxicology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University,²⁾ Drug Metabolism Research Laboratories, Drug Discovery Research, Astellas Pharma Inc.,³⁾ Tohoku University 21st Century, COE Program “Comprehensive Research and Education Center for Planning of Drug Development and Clinical Evaluation”,⁴⁾ Department of Environmental Health Science, Tohoku Pharmaceutical University)

論文題目: Role of Human Hepatocyte Nuclear Factor 4a in the Expression of Drug-Metabolizing Enzymes and Transporters in Human Hepatocytes Assessed by Use of Small Interfering RNA. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 22(4), 287-298(2007)

【3rd Place】

著者,所属:Koki KOJIMA, Kiyoshi NAGATA, Tsutomu MATSUBARA and Yasushi YAMAZOE
(Division of Drug Metabolism and Molecular Toxicology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Tohoku University)

論文題目: Broad but Distinct Role of Pregnane X Receptor on the Expression of Individual Cytochrome P450s in Human Hepatocytes. *Drug Metabolism and Pharmacokinetics* 22(4), 276-286(2007)

6). JSSX フェローについて(齋藤秀之選考委員長)

候補者について提出書類に基づき選考委員会で審査を実施。その結果を理事会で審議し、下記の10名(国内6名、海外4名)にJSSX Fellowの称号を授与することを決定した。

平成23年度フェロー授与者(敬称略)

国内

	氏名	
1	谷川原 祐介	慶應義塾大学
2	堀江 利治	千葉大学大学院薬学研究院
3	橋田 充	京都大学大学院薬学研究科
4	布施 英一	協和発酵キリン
5	諏訪 俊男	慶應義塾大学
6	成松 鎮雄	岡山大学大学院歯薬学総合研究科

海外

	候補者氏名	所属
1	R. Scott Obach	Pfizer Inc
2	Jack Uetrecht	University of Toronto
3	Amin Rostami-Hodjegan	University of Manchester
4	Varanuj Chatsudthipong	Mahidol University

7). 第29回年会長、第28回ワークショップ代表世話人について(乾 賢一会長)

(資料6ページをご参照ください)

8)各種委員会報告(平成 22 年、23 年度の2年間の総括)

① 編集委員会

委員長：玉井郁巳

副委員長：小澤正吾

委員：泉 高司、加藤将夫、川合良成、出口芳春、橋本征也、細川正清、山田英之、
Suk-Jae Chung、Jing-ding Huang

所属評議員：伊藤清美、奥田真弘、仮家公夫、北村繁幸、小林カオル、田川公造、千葉 寛、
千葉雅人、寺崎哲也、寺田智祐、寺村俊夫、頭金正博、戸塚善三郎、中山一誠、
檜垣和孝、松本宜明、宮田昌明、宮本謙一、森脇俊哉、安原真人、山下幸和、
山田静雄、吉田武美、吉田雄三、吉成浩一、渡辺和人

1. 活動目標

2010年1月から新編集委員会体制でのDMPKの編集がスタートした。特に、国際化を念頭に、外国人編集委員2名を加えた体制とし、より幅広い著者・読者を対象とする雑誌への発展を目指す。

2. 活動内容

- 1) 2010年より、外国人を編集委員(2名)を含む新しい編集委員体制。
- 2) テーマ号は2人ずつ特別編集委員の設置(テーマ号(2011年1月号,2012年1月号)を編集)。
- 3) 2010年の投稿数:126、2011年の投稿数:115(10/6時点) (2009年の投稿数:98)。
- 4) 投稿から最初の decision までの平均日数:2010年 25.0日、2011年 25.2日(2009年 30.3日)。
- 5) 最終の decision までの平均日数:2010年 56.8日、2011年 51.0日 (2009年 65.1日)。
- 6) 2010年新規投稿論文の reject 率:38.1% (国内 14%、国外 53.9%)。
- 7) 2011年新規投稿論文の reject 率:45.2%(審査中論文を除く)。
- 8) 海外からの投稿数:2010年 77報(58.8%)、2011年 43報(36.0%) (2009年 33報(33.7%))
- 9) IF:2009年 2.641、2010年 2.544、2011年 2.558。
- 10) DMPK 三賞の受賞論文を選定。
- 11) 平成 22,23 年度科学研究費の申請、両年とも採択。

3. 今後の課題

- 1) 総説 review article の充実化。
- 2) 論文文字数制限制度の導入。
- 3) 対象分野の拡大・焦点化。
- 4) 編集委員任期
- 5) DMPK 三賞のあり方・選考方法と表彰・公表手段

② DMPK 活性化委員会

委員長：今井輝子

副委員長：斎藤嘉朗

委員：伊藤清美、荻原琢男、加藤将夫、中島美紀、丹羽俊朗、渡辺和人

所属評議員：麻生良典、石黒直樹、小田切優樹、寺崎哲也、二宮真一、堀江利治、桂敏也、
楠原洋之、小室勢津子、崔吉道、永田清、橋本征也、埴岡伸光、東豊、藤田卓也、
細谷健一、水間俊、山田静雄、湯川栄二、伊藤晃成

1. 活動目的

DMPK 誌のインパクトファクター (IF) の向上、円滑な論文投稿および編集作業をサポートすることを目的として活動を行う。

2. 活動内容

1) DMPK 採択論文の早期公開

(WG: 今井輝子委員長、斎藤嘉朗副委員長、伊藤清美委員、丹羽俊朗委員)

2009 年より検討を始め、2010 年 9 月から採択論文 (PDF ファイル) の早期公開を、J-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/dmpk/-char/ja/>) 上で開始した。費用は 1 論文につき、3500 円である。

早期公開に伴い、

①採択論文の PDF 版を編集局へ送付する旨を Decision letter に記載した。

②Copyright Transfer form を投稿時に MC 投稿画面で upload 可能とした。

③学会ホームページの DMPK のページに Advanced publication (早期公開) のアイコンを追加した。

2010 年の impact factor は、2009 年の 2.544 から「2.558」へと微増した。早期公開の効果は、主として 2011 年の impact factor に反映されると考えられるため、その推移を期待している。

2) DMPK 投稿規定の改訂

(WG: 今井輝子委員長、斎藤嘉朗副委員長、伊藤清美委員)

投稿規程の重複記述や現投稿システムそぐわない内容を整理した。「DMPK Instruction to Authors for Electric Submission」から「Instruction to Author」にタイトルを変更し、改訂日 (Revised January 1, 2011) を記載して、2011 年 1 号から新投稿規程を掲載した。

3) DMPK 投稿論文の英文校正

(WG: 伊藤清美委員、斎藤嘉朗副委員長、今井輝子委員長)

論文採択後の英文校正の必要性について、Reviewer の意見を求めることにした。MC 上の Reviewer から Editor への Confidential Comments 欄に意見を記載するよう、担当 Editor から Review 依頼メールおよび MC 上に注意を促す文章を追記した。

4) Editorial Advisory Board の再編

(WG: 加藤将夫委員、荻原琢男委員、中島美紀委員、今井輝子委員長)

33 人 (日本人 21 人、海外 12 人) の EAB メンバーから 20 人の先生を残留、新たに 30 人の先生に入っただき、総数 49 人 (日本人 36 人、海外 13 人) で 2011 年からスタートした。

5) テーマ号の立案・編集

各年の1号をテーマ号として、その立案・編集を行う。

(2011年より Guest Editor として、担当者の名前を目次に掲載)

2011年 (Volume 26) (担当：渡辺和人委員)

タイトル： Current Topics in Drug Metabolism and Drug Toxicity

Guest Editor： Kiyoshi Nagata, Kazuhito Watanabe

Review 5報

2012年 (Volume 27) (担当：斎藤嘉朗副委員長)

タイトル： Basic Studies of Pharmacogenomics and Its Application for Drug Development

Review を依頼するとともに、一般論文の投稿をニュースレター上で依頼。

Guest Editor： Yoshiro Saito, Masahiro Hiratsuka

Review 9報

Regular Article 1報 (10月1日現在)

③ 国際対応委員会

委員長：山崎浩史

副委員長：玉井郁巳

委員：大槻純男、小澤正吾、川合良成、千葉康司、千葉雅人

所属評議員：朝日 知、池田敏彦、石田竜弘、岩崎一秀、岩本喜久生、宇野和夫、太田 茂、神村秀隆、北河修治、倉田知光、小池正博、後藤幹保、小西良士、高倉喜信、田川吉彦、谷川原祐介、徳井太郎、中島恵美、中山一誠、西村有希、橋田 充、樋坂章博、布施英一、堀江利治、三輪哲生、薙田泰誠、矢吹昌司、山下幸和

1. 活動目的

海外研究者らとの積極的な交流により、JSSX が Asian-Pacific 地域における薬物動態学研究の核になることを目指す。その目的達成のために、学会および学会を支える会員双方の意識の国際化の促進をとおして、JSSX 全体の活性化を推進する。

2. 活動報告

- 1) 2010 年および 2011 年年会時の JSSX 国際シンポジウムの企画および実行

2010 Drug Metabolism Research in Asia: Orphan P450 enzymes, Natural Products, and Human Metabolite Formations (Organizers: Hiroshi Yamazaki and Yune-Fang Ueng)

2011 How can JSSX support Asian clinical trial? -Current clinical practice, DMPK science and application of modelbased drug development (Organizers: Koji Chiba and Feng Guo)

- 2) 2011 年 Asian-Pacific ISSX meeting (台湾、4 月 22-25 日) との連携および啓発

- 3) JSSX 会員の ISSX 役員選挙や Award 等への適切なノミネーション

- 4) 海外研究者の JSSX 海外 fellow への推薦

3. 今後の活動予定

JSSX の研究周辺領域の関係者と幅広いアジア研究者の年会参加を期待し、基礎から臨床までを包含する年会シンポジウムを前国際対応委員会より継続してきたが、今回をもって 5 回シリーズの一応の節目を迎えた。今後は、2014 年 JSSX/North American ISSX 合同年会 (サンフランシスコ) 開催等を契機として、新委員会における新たな方針のもと学会および会員双方の国際化をはかる。

④ 学会活動活性化委員会

委員長:齋藤秀之

副委員長:山下伸二

委員:五十嵐隆、桂 敏也、楠原洋之、崔 吉道、櫻井栄一、佐々木均、設楽悦久、島倉 仁、藤田卓也、布施英一、山田一磨呂

所属評議員:井関 健、岩本喜久生、岡崎 治、荻原琢男、加藤基浩、金尾義治、鎌滝哲也、神村秀隆、河津剛一、北田光一、木村聰城郎、木村敏行、際田弘志、久米俊行、黒崎勇二、小池正博、河野喜郎、小西良士、杉田 修、関口金雄、高田寛治、高橋幸一、竹田秀一、谷川原祐介、辻 彰、寺村俊夫、富田幹雄、直良浩司、永井純也、永山績夫、成松鎮雄、西垣隆一郎、二宮真一、丹羽俊朗、野口隆志、林 正弘、樋口 駿、樋坂章博、藤田健一、堀江 透、増田智先、松崎 豊、泉二奈緒美、森本一洋、森脇俊哉、矢野育子、山本 昌

1. 委員会活動の目的

本委員会は“魅力ある学会づくり”を目指し、主に創薬領域を中心とした学会活動を展開しつつ、年会での創薬シンポジウム開催等の事業に取り組んできた。これまでの活動経緯を踏まえ、創薬領域並びに育薬・臨床領域における薬物動態研究の事業活動を企画・立案し、本会の活性化を図ることを主な目的とする。すなわち、創薬・開発研究並びに個別投与設計等の育薬研究における薬物動態理論・実践の重要性を一層明確化し、企業・行政関連研究者や薬剤師等に対して本学会活動の積極的アピールを図ることにより、「From Bench(基礎研究)to Bedside(臨床研究・育薬)」をコンセプトとした幅広い会員支持層の基盤確保とバランスのとれた活性化を目指したい。この目的を達成するため、各事業領域毎のWorking Group(WG)を立ち上げ、領域間での相互連携や情報・意見交換等を踏まえつつ、各事業活動の企画立案・調整等を図り推進する。

2. 委員会活動報告および今後の活動予定

1)第26回年会における創薬シンポジウムの企画・開催

担当委員:○山下伸二、楠原洋之、藤田卓也、布施英一、山田一磨呂、五十嵐隆、島倉 仁

・第3回創薬シンポジウム「創薬:新たな挑戦」(年会資料参照)

2)ベストポスター(BP)賞の選考について

担当委員:○桂 敏也、櫻井栄一、設楽悦久、五十嵐隆 (アドバイザー、家入一郎)

・BP 賞選考規約を策定し、本年度年会より基礎研究領域、臨床研究領域、創薬研究・開発領域毎の選考とした。各領域毎に選考委員(委員長・大森 栄)を委嘱し、演題要旨に基づく1次審査を実施した結果、ファイナリストとして計13演題を選定した。演題発表時に選考委員による最終審査を実施し、審査結果に基づき選考委員会にてBP賞受賞演題を決定する。

3)企業関係者を対象としたアンケート調査の実施

担当委員:○五十嵐隆、泉 高司、寺村俊夫、須藤賢一、永山績夫、馬場隆彦、森脇俊哉

・企業所属の会員並びに非会員を対象としてアンケート調査を実施し、本会事業活動等に対する要望や意見を集約・分析し、活性化を図るための情報を集積した。

4)薬剤師等メディカルスタッフを対象とする学会啓発活動等に関する事業企画について

担当委員:○佐々木均、崔 吉道、桂 敏也、齋藤秀之

・年会開催地(広島県)の病院等勤務薬剤師を対象とし、日本薬物動態学会事業や教育セミナー等に対する希望アンケート調査を実施した。本調査結果並びに所属委員・評議員の意見・提案等を集約し、本

委員会主導の臨床(育薬)系シンポジウムの企画について他委員会、理事会と連携しつつ検討準備を進める。

⑤ ビジョン委員会

委員長:鈴木洋史

副委員長:寺田智祐

委員:伊藤隆志、岩崎一秀、小宮 泉、水間 俊、矢吹昌司、吉川剛兆、吉成浩一

所属評議員:東 純一、安仁屋洋子、有吉範高、家入一郎、伊賀勝美、石井祐次、石川智久、石黒直樹、石田竜弘、宇野和夫、大槻純男、大森 栄、樫山英二、糟谷史代、鎌滝哲也、河津剛一、斎藤嘉朗、櫻井栄一、篠原佳彦、島田美樹、杉田 修、杉山雄一、鈴木 尚、田川公造、竹田秀一、立石 満、田端 滋、千葉康司、戸塚善三郎、富澤宏樹、西垣隆一郎、沼沢光輝、藤田健一、細川正清、堀江 透、増田智先、松本宜明、丸山 徹、宮田昌明、宮本謙一、宮本 徹、三輪哲生、蒔田泰誠、村上照夫、望月正隆、安原真人、安盛俊雄、山田一磨呂、吉田武美、吉村 勉、渡辺善照

1. 活動目的

日本薬物動態学会の益々の活性化に向けて、今後の進むべき方向性・活動方針について議論を行う。

2. 活動報告

年会時に委員会を開催し、今後の方針について、特にDMPK誌ニュースレター記事や年会時のシンポジウムタイトルの企画・提案等についての議論を行った。

3. 今後の活動予定

来年度からは、ニュースレター編集委員会・学会活性化委員会など各種委員会が、現在までビジョン委員会にて議論された内容を十分に考慮しつつ、学会の活性化に当たる。

⑥ フォーラム委員会

委員長: 山田英之

副委員長: 泉 高司

委員: 五十嵐隆、池田敏彦、大野泰雄、久米俊行、古武弥一郎、内藤真策、永田 清、永山績夫、成松鎮雄、松崎 豊、松永民秀、泉二奈緒美、吉村義信、林 正弘

所属評議員: 朝日 知、安仁屋洋子、有吉範高、家入一郎、伊賀勝美、石川智久、太田 茂、小沢直記、小田切優樹、加藤基浩、北田光一、北村繁幸、木村敏行、後藤幹保、小林カオル、小林 智、小室勢津子、重松秀成、島倉 仁、島田美樹、関口金雄、高橋幸一、田川吉彦、田中栄之介、田端 滋、千葉 寛、頭金正博、徳井太郎、徳間洋二、西村益浩、沼沢光輝、根本信雄、羽鳥晶子、埴岡伸光、平塚 明、堀 勝行、丸山 徹、三浦慎一、宮本 徹、望月正隆、森本一洋、吉田雄三、吉原新一、吉村 勉

1. 委員会の活動目標・役割

本委員会は医療を巡る国際的動向を把握し、創薬に寄与できるテーマを発掘して「フォーラム」において提示すると共に、主に企業関係者にアピールできる企画を検討する。従って、「フォーラム」は企業会員が自主的に薬物動態に係る諸問題について課題を設定し、これについての情報公開と議論の場とする。また、企画・実施されたフォーラムの成果やインパクトを追跡調査し、今後のフォーラムのあり方を考える。

2. 活動内容

1) フォーラム 2010 の企画立案

書面会議を通して、仮課題案の問題点修正並びに具体的構成を検討し、下記の内容を委員会最終案とした(理事会承認ののち、案の通りに実施)。

タンパク質薬に関する現状と将来展望: 安全性、動態試験および承認審査

The status and future perspective of protein drugs: their safety, pharmacokinetics and approval

1. タンパク質・ペプチド・抗体医薬品の世界・国内市場と開発状況
武田バイオ開発センター(株) 高原 栄二 先生
2. タンパク質薬の CMC 審査
京都大学大学院 川上 浩司 先生
3. タンパク質・ペプチド・抗体医薬品の品質管理・安全性評価について
国立医薬品食品衛生研究所 川西 徹 先生
4. 抗体医薬品開発における臨床薬物動態の意義
中外製薬(株) 寺尾 公男 先生
5. タンパク質・ペプチド・抗体医薬品の動態試験 -レギュレーションとその実際-
高崎健康福祉大学 荻原 琢男 先生
6. タンパク質・ペプチド抗体医薬品開発における臨床研究
北里大学東病院 熊谷 雄治 先生

2) フォーラム 2011 の企画立案

書面会議を通して、仮課題案の問題点修正並びに具体的構成を検討し、下記の内容を委員会最終案とした(理事会承認ののち、案の通りに実施の予定)。

創薬と化学療法のためのバイオマーカー:探索、並びに治験及び申請への活用と問題

Biomarker contributing to drug discovery and chemotherapy: its development and validity in clinical trial and successful approval

1. 臨床開発を加速するツールとしてのバイオマーカー
実行データサイエンス(株) 山口 行治 先生
2. メタボロミクスによる新規肝臓疾患マーカーの発見
慶應義塾大学先端生命科学研究所 曾我 朋義 先生
3. 薬物代謝酵素 CYP 450 の遺伝子多型診断の臨床応用の可能性
ロッシュ・ダイアグノスティクス(株) 小川 徹 先生
4. がん薬物療法のバイオマーカーの探索と活用
近畿大学医学部ゲノム生物学 西尾 和人 先生
5. 重症薬疹の危険因子
国立医薬品食品衛生研究所 鹿庭 なほ子 先生
6. バイオマーカーに関する医薬品医療機器総合機構の最近の取り組み
医薬品医療機器総合機構 新薬審査第三部 關野 一石 先生

3)フォーラム 2012 の企画立案

書面会議を通して、仮課題案の問題点修正並びに具体的構成を検討し、「核酸医薬の動態試験:現状、審査、並びに将来展望」の課題案が承認された。

⑦ NL 編集委員会

委員長:湯浅博昭

委員:設楽悦久、松永民秀、三宅正晃

1. 活動目的

本会の諸活動、薬物動態学関連分野の動向等に関する情報提供を図る。会員への情報提供サービスと併せ、記録保存の役割を担う。その一環として、NL(ニュースレター)連載記事等の書籍化についても検討する。電子媒体の普及を踏まえ、迅速かつ効果的な情報提供のための連携についても検討する。

2. 活動報告

1) NL の定期刊行

NL を定期刊行(隔月, 偶数月末)しつつ、紙面(企画・連載等)の見直しを行った。紙面構成は以下の通りである。

展望: 受賞記念寄稿、ワークショップ及びショートコース企画、年会特別企画等

連載企画: アドメノート、トピックス、アドメサークル、学会参加体験記、海外留学体験記

・アドメノート: 学術情報を提供する解説記事の連載(レクチャーノートの後継の新企画)

シリーズ 1: 薬物体内動態に関わるトランスポーターと臨床的諸問題

シリーズ 2: 薬物動態研究における実験材料及び評価系開発の最近の動向

・トピックス: ガイドライン最新情報(従来からの継続企画)

・アドメサークル: リレー形式で会員諸氏が自由に語る連載、従来の企業研究者を中心とした連載の再編・拡充(日本の薬物動態研究者:(1) 企業編、(2) 教育・研究・医療機関編)と組織としての研究取り組みを紹介する組織編(日本の薬物動態研究組織)の新設

・学会参加体験記: 学会参加の体験報告(従来からの継続企画)、海外学会に重点

・海外留学体験記: 海外留学のノウハウ情報、海外事情等を交えた体験談の連載(新企画)

DMPK 著者からのメッセージ

特別企画: 追悼等

各種案内・連絡(重要なものはNL 冒頭で告知)

2) NM(ニューズメール)の定期配信

NMの定期配信(毎月)を平成23年1月から開始した。オンライン情報の活用促進、会員への情報提供の効率化(迅速性・利便性の向上)を図るものである。HP(ホームページ)との連携により、隔月のNL発行で対応できない急ぎの案内等にも対応し易い態勢となった。配信内容は以下の通りである。

Topics: 新着情報

Information: 本会の学会会合、関連学会等の各種情報

DMPK News: DMPK 誌、NL の発刊案内等

*同時に、HPのPDF版NLへのアクセス制限を導入し(最新の1年分を会員専用とし、1年より前のバックナンバーを一般公開)、会員サービスとしての差別化を図った。

3) NL 掲載記事の連載シリーズ単位アーカイブ化(オンラインコレクション化)

連載シリーズ毎にアーカイブ化(アーカイブ web ページの記事リストから記事毎の個別 pdf へリンク)することで、記事閲覧の利便性向上を図る。以下の項目を中心に、検討を進めているところである。

アーカイブ化の概要: 経費、アーカイブページ的设计・作成と管理等

サービス提供範囲: 会員限定

現行のNL(単一 pdf)の扱い: 個別化した記事も含めたまま継続

3. 活動予定

- 1) NL の定期刊行
- 2) NM の定期配信
- 3) NL 掲載記事の連載シリーズ単位アーカイブ化
- 4) HP との連携の緊密化についての検討
- 5) NL 連載記事等の書籍化の検討

⑧ 財務委員会

委員長:馬場隆彦

委員:大野泰雄、須藤賢一

1. 主な活動内容

①学会経理状況の把握と共有

2010年冒頭において、以下の点をもとに、理事会ならびに評議員会に対して学会の経理状況について認識を高めて戴くことをお願いした。

- 1) 製薬業界における企業合併や薬学部6年制移行の影響などを受けて、本会員数が減少しつつあること、並びに、賛助会員が減少しつつあること
- 2) 科研費を除けば赤字体質であること
- 3) 過去5年間のトレンドを追跡すると、上に述べたとおり、収入の部が減少の傾向にある一方で、支出については筋肉質の運営ができており、削減の余地はあまりなく、寧ろ学会活動の活性化に伴って若干の支出増がむしろ必要であること
- 4) 基金については、一見十分な金額があるように見えるものの、上述の状況から、あまり余裕はないこと

また、従前からの懸案である法人化に向けた準備についても、その是非を確認、検討した。

②理事会への提案

- 1) 会員増加の努力をお願いする。特に、学会の魅力の向上の工夫を各方面で検討する
- 2) DMPK出版費用について、削減できる余地や工夫がないか検討する
- 3) 理事会の開催回数を必要最小限とすると共に、企業所属理事は事情の許す範囲で旅費交通費を辞退する
- 4) 年会、ワークショップ・ショートコースの運営に理事会の関与を高くし、これらの活動における収益性を高め、学会本体の財務支援に役立てる
- 5) 必要に応じて、会費値上げも検討する
- 6) これらの一方で、学会のアクティビティを向上させるための攻めの投資については、積極的に行なうべきであると提言する
- 7) 法人化については、先ず現在の財務状況の安定化に取り組んで、一定の成果を得た後に検討することとする

2. 今後について、申し送り事項

引き続き、学会の魅力を向上させ、会費収入を中心とした歳入の部分の維持向上に集中する必要がある。

- 1) 会員であることの価値・差別化のため、HP、年会プログラムの内容の向上が肝要
- 2) 会員増加の努力を全方位的に展開する必要がある
- 3) 必要に応じて会費の値上げも検討するが、先ず、学会の魅力の向上があつてのこと
- 4) 学会の活性化のための攻めの投資は積極的に行なうべき
- 5) 学会事務委託が変更になるので、事務局長を中心に、暫くの間、安定化への努力が必要
- 6) 年会やワークショップの収益をもとに、学会の財務面を安定させ、法人化への準備を進める
- 7) 基金について、攻めの投資のためにも、名称と目的の整理をしておくことが望ましい

⑨ 総務委員会

委員長:高野幹久

副委員長:細谷健一

委員:奥田真弘、樫山英二、金尾義治、倉田知光、林 正弘、矢野育子、渡辺善照

所属評議員:麻生良典、石井祐次、井関 健、伊藤隆志、大森 栄、岡崎 治、糟谷史代、北河修治、木村聰城郎、際田弘志、黒崎勇二、重松秀成、篠原佳彦、諏訪俊男、高倉喜信、高田寛治、出口芳春、富田幹雄、直良浩司、永井純也、西村有希、野口隆志、橋田 充、羽鳥晶子、檜垣和孝、東 豊、樋口 駿、平塚 明、藤井敏彦、堀 勝行、村上照夫、安原 一、安盛俊雄、山本 昌、湯川栄二、吉原新一、吉村義信

1. 総務委員会の活動目的

総務委員会の主な役割は、学会全体の運営が適正かつスムーズに行われるように企画、方針を策定することにある。このため、例えば、学会組織運営の骨子とも言うべき会則、細則に関し、適宜、見直し、改定を行う。また、学会全体が活性化するよう、他委員会と連携の上、方針を策定する。新評議員や名誉会員候補者の予備審査も所掌事項の一つである。

2. 平成 22 年～平成 23 年の活動内容

1. 第 11 期委員会メンバーおよび所属評議員について会長と相談の上、調整・確定(今期より評議員の専門領域を照会;年会の座長選定等に活用)
2. 「正会員および学生会員の休会および海外在住届に関する細則」の改定(申請者は事前に休会届けを提出することを明記)
3. 製薬企業内での部所移動が休会理由として認められるか否か検討(「部署移動を理由とする休会は認めない」ことを理事会にて確認)
4. 会則、細則の制定日と改定日の記載様式の検討(末尾に記載することに決定)
5. Fellow 候補者の調査およびNominator の調整(平成 22 年、平成 23 年)(なお、平成 24 年度以降は、当該年度の国内・海外候補者数等を理事会にて事前に検討することを確認)
6. Fellow 授与者が退会した場合の取り扱いについての検討(Fellow 授与者は退会後も Fellow 称号を使用できることを確認)
7. 会員歴 5 年未満の正会員の評議員候補者推薦の取り扱いについて検討(会員歴 5 年未満の候補者については、所信表明書を提出することに決定)
8. 名誉会員の選考基準についての検討
9. 新評議員候補者、新名誉会員候補者の予備審査の実施(平成 22 年、平成 23 年)
10. 受賞者紹介冊子(Awards program)の体裁および掲載内容の確認・校正

3. 今後の活動予定

新評議員の推薦要件、名誉会員選考プロセス、理事選挙のあり方等に関する見直しの必要性について検討する。また、学会運営に関わる事項について、他委員会とも連携をとりながら継続的に対応する。

9). 会員専用ページ開設について(須藤賢一事務局長)

平成 23 年 10 月 28 日より、当学会ホームページを介して新たに「会員専用ページ」を開設した。「会員専用ページ」のメニューは以下の 5 つであり、会員番号や入会日、登録情報等の確認が簡単に出来るようになった。また、会員専用のコンテンツも順次設けて最新の研究および規制情報等を提供する予定である。

<メニュー>

- ① お知らせ
- ② 登録情報閲覧
- ③ 請求入金情報閲覧
- ④ 役職就任歴閲覧
- ⑤ 登録情報変更

「会員専用ページ」のアクセスに必要な ID とパスワードについては、10 月下旬より文書にて郵送している。

<本件に関する問合せ先>

平成 23 年 12 月迄：日本薬物動態学会事務局 ((財)国際医学情報センター内)

TEL 03-5361-7370 / E-mail jssx@imic.or.jp

平成 24 年 1 月～：日本薬物動態学会事務局 ((株)コネット内)

TEL 03-5719-4150 / E-mail jssx@conet-cap.jp

The image shows a screenshot of the JSSX (The Japanese Society for the Study of Xenobiotics) website. At the top, there is a header with the JSSX logo and name in Japanese and English, along with language selection options for Japanese and English. Below the header is a navigation menu with buttons for HOME, 学会概要 (DMPK(学会誌)), 入会・事務手続き (ニューズレター), 会員へのお知らせ (関連学会情報), 学術年会 (ワークショップ等), リンク集 (求人情報), and サイトマップ. The main content area features a large banner with the text "Welcome to JSSX" and a background image of a person in a lab coat. Below the banner is a vertical sidebar menu with buttons for 第26回年会, 第25回ワークショップ, 第5回ショートコース, 会員専用ページ (highlighted with a red circle), and 事務局・コンタクト. To the right of the sidebar is a "LOGIN" form with fields for ユーザーID and パスワード, and a ログイン button. A large white arrow points from the "会員専用ページ" button in the sidebar to the login form. At the bottom right of the login form, there is a link that says "ログインして下さい".

10). 学会事務局委託先について(須藤賢一事務局長)

学会事務局移転のお知らせ

日本薬物動態学会

日本薬物動態学会事務局は、平成24年1月1日(日)より、下記に移転いたします。業務開始は1月4日(水)からの予定です。

日本薬物動態学会事務局

(移転先)

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル

株式会社コネット内

TEL : 03-5719-4150

FAX : 03-5719-7516

E-mail : jssx@conet-cap.jp

※平成23年12月28日(水)までは現事務局(財団法人国際医学情報センター内)にご連絡くださいますようお願いいたします。

日本薬物動態学会事務局

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館

財団法人 国際医学情報センター内

TEL : 03-5361-7370

FAX : 03-5361-7091

E-mail : jssx@imic.or.jp

Ⅲ. 第 26 回 WS および第 6 回 SC について(森脇俊哉第 26 回 WS 代表世話人)

#報告は懇親会にて

1). 第 6 回ショートコースについて

実行委員長: 久米俊行(田辺三菱製薬)

日時: 2012 年 4 月 22 日 (9:00-13:20)

会場: 慶応大学薬学部 (東京都港区芝公園 1-5-30)

主題: ~非臨床から臨床へ~ 医薬品開発におけるヒト PK 予測のストラテジー

1. ヒト PK 予測における empirical および physiological アプローチ 小村 弘(日本たばこ産業)
2. 血清懸濁肝細胞取り込み試験による肝 Kp および肝クリアランスの予測 小柳孝史(小野薬品)
3. UGT 代謝基質のヒト薬物動態予測 ~肝クリアランス予測を中心に~
岩崎 優(第一三共 RD ノバーレ)
4. 動物 PK データを用いたヒト PK の予測
~Empirical approach から Rational approach への進化~ 満井哲也(中外製薬)
5. 混合効果モデルによるヒト PK 予測
~各種 in vitro-in vivo データの ePPK 法への integration~ 赤羽隆文(アステラス)
6. ラウンドテーブルディスカッション (昼食・弁当つき)

2). 第 26 回ワークショップについて

代表世話人: 森脇俊哉(武田薬品工業)

日時: 2012 年 4 月 22 日 (14:00-17:00), 23 日 (9:00-17:30)

会場: 慶応大学薬学部 (東京都港区芝公園 1-5-30)

主題: 医薬品の創薬開発をサポートする相互作用研究 ~珠玉の作品集~

■ 4 月 22 日(第一日目)■

14:00-17:00

【基調講演 1】

CYP based DDI の 予測の現状と医療現場からのメッセージ 樋坂章博(東大付属病院)

【基調講演 2】

Transporter based DDI の現状と将来 杉山雄一 (東大)

【特別講演】

医薬品承認審査からみた DDI の問題点 堀内龍也(日本病院薬剤師会)

17:40-20:30

懇親会(ワークショップ参加者は無料)

■ 4 月 23 日(第二日目)■

9:00-11:50

テーマ 1 食物との相互作用の論理的考察

●消化管吸収過程における医薬品-ジュース相互作用機構 玉井郁巳(金沢大)

●物性面からの食事の影響予測 河合幸紀(第一三共 RD ノバーレ)

テーマ 2 動物を用いた DDI 評価の有用性

●新薬開発におけるサルを用いたリスク評価 大塚達之 (田辺三菱)

●DDI 評価におけるラットおよびサルの利用 金子晃久(中外製薬)

11:50-13:00 昼休み

※12:05-12:50 ランチョンセミナー

積水メディカル、新日本科学、ブルカー・ダルトニクス株式会社の3社

13:00-17:30

テーマ3 探索段階におけるDDIの評価法

- Metabolism dependent inhibition の主CYP酵素におけるクロストーク

稲谷祥子(大正製薬)

- 探索段階におけるCYP阻害リスク評価

小杉洋平(武田薬品)

- 探索段階におけるMBI化合物のDDIリスク評価

渡邊将規(大日本住友)

テーマ4 トランスポーターに起因する薬物間相互作用の評価

- 消化管におけるCYP3A4およびP-gpを介した薬物間相互作用

橘 達彦(中外製薬)

- 薬物脳内移行過程に及ぼすP-gp阻害の影響

杉本宏史(武田薬品)

テーマ5 自社化合物の臨床DDI評価とIn vitroデータとの対応

- 血管新生阻害薬TSU-16のCYP1A酵素誘導機構と臨床結果

松岡和明(大鵬薬品)

- FK1706による時間依存的CYP3A4/5阻害に関するヒトin vitro/vivo解析

峯松 剛(アステラス)

■ 参加費 ■

【ワークショップ】

会員 18,000 円(当日 23,000 円)、非会員 28,000 円(当日 33,000 円)、学生 7,000 円(当日 9,000 円)

【ショートコース】

会員 12,000 円(当日 17,000 円)、非会員 20,000 円(当日 28,000 円)、学生 5,000 円(当日 6,000 円)

尚、ワークショップとショートコース両方に同時参加登録された方は以下の特別価格になります。
会員 27,000 円(当日 36,000 円)、非会員 40,000 円(当日 50,000 円)、学生 8,000 円(当日 10,000 円)
また、学生会員の方は参加費を無料にします(申し込み先着 50 名)。

参加費等の詳細につきましては、学会ホームページ (<http://www.jssx.org/>) に随時掲載いたしますので、ご確認ください。なお、参加申し込みは 2012 年 1 月 10 日(月)よりホームページで開始する予定です。

【連絡先】

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル 株式会社コネット内

日本薬物動態学会第 26 回ワークショップ/第 6 回ショートコース事務局

TEL : 03-5719-4150

FAX : 03-5719-7516

E-mail : jssx-ws@conet-cap.jp

担当 : 鹿間

VI. 第 27 回年会について(千葉第 27 回年会長)

#報告は懇親会にて

日時: 2012 年 11 月 20 日(火) - 22 日(木)

場所: 船堀タワーホール

年会長: 千葉 寛(千葉大学)

テーマ: 創薬と薬物治療を推進する薬物動態研究の進歩